

片側性遊離端欠損症例(上顎5、6、7欠損)

サベイヤー計測①



- ・義歯の着脱方向を決定します。
- ・通法に従い歯にサベイヤーラインを描記します。
- ・歯肉部分のサベイヤーラインも描記します。

【ポイント】

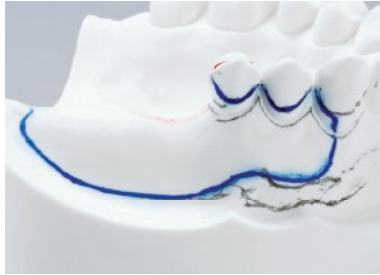
義歯の脱着を考慮して4番(最後臼歯)の遠心から義歯が装着されるようにします。

サベイヤー計測②



舌側も頬・唇側と同様にサベイヤーラインを描記します。

ブロックアウト リリース 床外形線記入



- ・床外形線は、欠損部と歯槽骨、歯周組織を補うように設計し、レジンアーム部は移行的になだらかな形状になるように設計します。
- ・レジンアームの形状は2歯半から3歯にまたがるように設計します。
- ・全体的に研磨の際の喪失量を考慮し、理想的なサイズより少し大きくなるように設計します。
- ・義歯の装着方向の基点である4番の遠心隣接部分0.25mmのアンダーカットを残しブロックアウトを行います。また、歯間乳頭部分、歯頸部付近もブロックアウトを行います。
- ・欠損部の歯周部、歯肉部保護のため、リリースを行います。

【ポイント】

レジンアームの厚みは、根元部分で1.8mm、先端部分は0.5mmを目安としてください。(症例により厚み、幅を変化させてください)



舌側も頬・唇側と同様に床外形線の設計を行います。ただし、舌側の設計の際には、発音や舌感などに影響を与える舌の動きを考慮する必要があります。

写真の中で描記されている
ライン

- ・赤線…レスト
- ・青線…レジンアームを含む
床外形線